

# 教科等研究会（中学校保健体育部会）

## 平成30年度 研究活動のまとめ

### 1 研究テーマ

主体的・対話的に取り組み、体力を高める体育授業  
 ～運動の楽しさや必要性を感じさせ、関心・意欲を引き出す授業～

### 2 研究経過

第1回			第2回（実技講習会）			第3回（実践発表会）			第4回（研究授業）		
期日	人数	場所	期日	場所	提案者	期日	場所	授業者	期日	場所	授業者
5 ／ 24	15	益城 中学校	7 ／ 31	木山 中学 校	武田雅裕 （益城中学校） 中尾祐毅 （浦和中学校）	10 ／ 30	甲佐 中学 校	各中学校 代表者	1 ／ 24	嘉島 中学 校	藤野博文 松尾成也 （嘉島中学校）

### 3 研究の概要

#### (1) 研究の内容

本部会では新学習指導要領の方針の一つでもある「主体的・対話的」をキーワードに、一人一人の生徒の体力向上を目指し、研究テーマを設定した。また、本部会では長年に渡って郡全体で体力向上に向けたの取り組みを行ってきた。その成果として、徐々に本郡生徒の体力は向上傾向が見られるものの、依然として体力・運動能力調査結果では県や全国平均を下回る種目が多い。体力を向上させるためには、運動を行うことはもちろんであるが、生徒が自主的に運動を行おうとする関心・意欲を高める手立てが必要であると考え、研究テーマを達成するために共通実践事項としての2つの柱、「①主体的な取り組み」「②対話的な取り組み」をもとに研究を進めた。

#### ① 生徒が主体的に取り組む授業づくりについて

生徒が主体的に授業に取り組むためには、見通しをもって授業に参加する必要があると考え、単元計画表や授業の1時間の流れを示したメニューボードの掲示を共通実践事項の一つにした。右図は単元の流れを示した単元計画表ある。単元計画やメニューボードを提示したことで、生徒は目標達成までの時間を見通して計画を立てたり、次の学習活動を意識したりしながら、主体的に活動できるようになった。さらに、毎時間の活動内容を変えるのではなく、単元を通して、活動内容や授業の流れを固定化し、教師の指示が少なくてもスムーズに授業が行えるような工夫を行った。特に見通しをもつことが苦手な生徒にとっては有効な手法であったと考える。



見通しをもたせる単元計画の提示



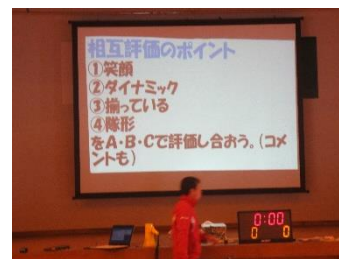
ICT機器を用いて本時のめあてを提示している様子

体育授業の中では、「分かる・できる」ようになると生徒が主体的に活動するようになる。そこで、本時のめあて（学習目標）を分かりやすく、具体的な行動様式で表記するよう工夫した。例えば、「積極的にダンスを楽しもう」というような抽象的なものではなく、「出来映えや課題を伝え合い、評価を基に課題練習に取り組もう」というような、生徒がこの授業の中での「やるべきこと」が分かりやすい表現で提示するようにした。

さらに、「視覚化」を積極的に取り入れた。左図はICT機器を用いて、本時のめあてを確認している様子である。このような手立てを導入部分に用いることで、目標を意識化させる効果があった。

生徒が「分かる・できる」喜びを実感するために、展開の場面においては、生徒が課題を解決する場면을計画的に位置づけるようにした。この場面では、発問の仕方や生徒同士での相互評価のやり方を工夫し、生徒自らが課題を見つけ、その課題の解決に向けて、考えを伝え合った。

右図はダンスの授業で行った生徒同士の相互評価におけるチェックポイントの内容である。このようにチェックポイントがはっきりと決められていることで、相手を評価するときの視点が明確となり、評価されたときにも、自分の課題が具体的にわかり、課題解決に向けたその後の活動にも主体的に取り組むようになった。特に、課題解決の場面では、ペアやグループでの活動に取り組む流れを固定化し、仲間と関わり合いながら課題を解決できるようにした。



相互評価におけるチェックポイントの内容

## ② 生徒が対話的に取り組む授業づくりについて

本研究会では、授業の中での対話的な活動を積極的に取り入れている。これは、「平成30年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査報告書」にも示されているように、多くの生徒が仲間との関わりを通して「分かる・できる」喜びを実感しているからである。今後も、保健体育の授業の中で言語活動の充実が求められていくと考えられる。

対話的な活動を取り入れた授業においては、ペア学習やグループ学習の時間を多く設定し、生徒同士で課題解決に向けた学習ができるようにした。その際、課題解決をしていく中で、何について教え合い、話し合うのかという視点を明確に指示した。

また、話し合いや教え合いの時間は生徒に任せるだけでなく、教師が巡回し、積極的に賞賛し、助言を重ねた。話し合いの中では、学習が進むにつれ、「いいね」や「がんばれ」などの仲間のやる気を引き出す言葉も聞こえるようになった。自分自身ができなくても、技のポイントをアドバイスするだけでなく、「〇〇ができてきているかを見ていて」など、自分でポイントを整理しながら学習を進めることができるようになった。

授業のまとめの段階では、学習カードをもとにして、生徒が学習を振り返る場面を設定し、1時間の授業の中で学んだことを伝え合うようにした。生徒は話し合いを通して、自分だけでは気づかなかった内容にも気づきをもてるようになり、授業での学びを更に深めることができた。



相互評価をもとに班で話し合っている様子



学習カードでの振り返りの様子

## (2) 成果と課題 ( ○ : 成果 ● : 課題 )

### ① 生徒が主体的に取り組む授業づくりについて

- 単元の流れや1時間の授業の流れを提示することで、生徒自身が見通しをもって活動の計画を立てる場面が増えた。
- 仲間と関わり合いながら課題解決していくことは、特に運動が苦手な生徒の意欲を向上させることに役立った。
- リーダーの生徒を中心に活動できていたが、リーダーに頼りすぎている場面も多く見られたので、更に一人一人が活躍できる場面を設定する必要がある。

### ② 生徒が対話的に取り組む授業づくりについて○

- 話し合う内容を明確に示されたことや、話し合いの中での役割を決めることで、話し合いがスムーズで活発なものになった。
- チェック表や学習カード等、思考ツールを効果的に用いることで、生徒同士の教え合いや話し合いが活発になった。
- 対話的な活動の時間が増え、体を動かす活動時間が減ってしまうと、体力向上につながらないことになってしまう。

## 4 実践事例

### (1) 授業の概要

中学2年生「現代的なリズムのダンス」

授業者：藤野博文教諭 ・松尾成也講師（嘉島中学校）

ダンスの授業において、生徒が主体的・対話的に取り組むためには、どのような工夫を行えばよいかという提案性のある授業であった。単元計画を掲示し、生徒に見通しをもたせることで生徒たちは発表会を目標とし、1時間1時間の活動内容を考えることができていた。また、めあてやチェックポイントの内容をICT機器で提示する等、視覚的に分かりやすい手立てが授業全体できていた。

グループ同士での相互評価を行うことで、評価をする相手だけでなく、自分たちのグループの課題にも気づけるという工夫がされていた。また、話し合いの場面では、話し合うポイントが明確になっており、リーダーを中心に積極的な話し合いや教え合いをする様子が見られた。

導入部分で行われた準備運動では、全員で「がんばろう」や「ファイト」等の励ましの掛け声が響いていた。この活動は、体力向上だけでなく、生徒同士の仲間意識を高める活動としても有効なものだった。



### (2) 授業研究会

#### ① 授業者自評

- ・発表会という最終目標だけでなく、中間発表の時間を設定することで、生徒が段階的な目標をもって授業に取り組めるようにした。
- ・ダンスに対しての意欲や、グループ内での仲間意識が高まり、休み時間にもグループで練習をしている様子が見られる。

#### ② 質疑応答・研究協議

Q：オリエンテーションの内容は？

A：昨年のダンス発表会の映像を見せた。生徒たちは「自分たちもあんなダンスがしたい」という意欲を見せていた。これは、自分たちの学年という「横のつながり」だけでなく、先輩たちの伝統を受け継いでいこうという「縦のつながり」を意識させることにもつながっている。また、ダンスを作る上でのポイントについても「広がり」や「高さ」等、生徒がイメージをもてるように具体的に話しをした。

Q：評価については？

A：技能の評価については、発表の様子を撮影して行う。思考判断の評価は、話し合いでの発言内容や学習カードに記載された内容で評価する。

Q：グループを作る上での工夫は？

A：各グループに、ダンスが上手な者やリーダーシップをとれる者がいるようにしている。また、学年部の先生方からの意見も参考にしながら、人間関係にも配慮をして作っている。

～協議～（今回の授業をもとにダンスの授業の工夫改善を考える）

- ・ダンスは運動量も多く、体力向上にも有効な教材であることがわかった。生徒も楽しそうに活動しており、運動への関心・意欲を高められるものでもある。
- ・ダンスについては、生徒よりも、教師の方に苦手意識があるのではないかと思う。最近では、ICT機器等もあるので、積極的にダンスの授業に取り組んでいくことが必要である。

#### ③ 助言者まとめ

研究テーマ通り、生徒たちが主体的・対話的に活動できていた。運動量も多く、生徒たちも意欲的に取り組んでいた。さらに、ICT機器を使い、自分たちの動きが分かるようにすると、より生徒たちが活動的になると考えられる。

## 第2学年1・2組 保健体育科学習指導案

場 所：嘉島中学校体育館  
 指導者：教諭 藤野 博文  
 講師 松尾 成也

1 単元名 G ダンス「現代的なリズムのダンス」

2 本時の学習

(1) 本時の目標

- 積極的にダンスに取り組むことができるようにする。
- 仲間の学習を援助することができるようにする。
- リズムの特徴を正確にとらえて踊ることができるようにする

(2) 本時の展開 (7 / 10)

過程	学習活動	形態	指導上の留意点・評価	備考
はじめ 15分	1 挨拶・健康観察 2 準備運動 ①ラジオ体操第2 ②5分間走 ③体幹トレーニング 3 本時のめあてを確認する。	徹底	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時を振り返る</li> <li>・大きな声で行わせる。</li> <li>・主運動につながるよう意識を持たせる。</li> </ul>	学習カード
なか 30分	4 各グループに分かれ出来映えを評価し合う。 1組A班と2組A班 1組B班と2組B班 1組C班と2組C班  5 評価を基に新たに覚える振り付けや課題練習に取り組む。	能動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チェックポイントを意識しながら、前時までの出来映えを見せ合わせる。</li> <li>・チェックポイントを基に評価コメントを記入させる。</li> <li>・評価のコメントを伝え合う活動をさせる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループの課題が共有できているか確認する。</li> <li>・リズムに応じた動きができていないか確認する。</li> <li>・積極的に活動しているか確認する。</li> <li>・苦手な生徒や動きがわからない生徒への手だてができていないか確認する。</li> <li>・グループの動きをタブレットで撮影し、イメージを持たせる。</li> </ul> <p><b>【評価】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○チェックポイントを意識しながら出来映えや課題を伝え合うことができる。</li> <li>○評価を基に課題練習に取り組むことができる。</li> <li>○積極的にダンスに取り組んでいるか。</li> </ul> <p><b>【言語活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○チェックポイントを基にコメントの記入や課題を伝え合う。</li> <li>○分からないところや苦手なところを聞いたり、伝えたりする。</li> </ul>	CD ラジカセ  ホワイトボード タブレット
おわり 5分	6 本時の学習のまとめ ○学習カードへの記入 ○感想発表 ○まとめ	徹底	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習カードをもとに、本時の反省や次時への展望が持てるような話し合いができていないか確認する。</li> <li>・他の班の意見を聞き、参考にするよう促す。</li> </ul>	

チェックポイントを意識しながら出来映えや課題を伝え合い、評価を基に課題練習に取り組むことができる

3 終わりに

主体的・対話的な授業を目指して、1年間研究を続けてきた。来年度は、小学校との連携も視野に入れ、さらに充実した授業が展開できるよう、更に研究を進めていきたい。